

# 第2次茨城県文化振興計画アクションプランに基づく施策の 取組状況について

(令和5年度第1回茨城県文化審議会資料)

## 目次・事業体系

### I 人材の育成 … P 1

- (1) 文化の担い手の育成及び確保
- (2) 次世代を担う子どもたちの育成
- (3) 文化に関する教育の充実

### II 文化の振興 … P13

- (1) 芸術の振興
- (2) 伝統文化の継承及び発展
- (3) 生活文化等の振興
- (4) 文化を活用した地域づくり
- (5) 文化交流の推進

### III 文化的資産の活用 … P23

- (1) 文化的資産の活用
- (2) 文化財の保存等
- (3) 公共の建築物の建築に当たっての配慮

### IV 文化活動の充実 … P26

- (1) 県民の文化活動の充実
- (2) 高齢者・障害者等の文化活動の普及
- (3) 青少年の文化活動の普及

### V 文化活動の支援体制の充実等 … P31

- (1) 文化情報の収集及び提供
- (2) 推進体制の整備
- (3) 文化施設の機能の充実
- (4) 地域における文化活動の支援
- (5) 財政上の措置
- (6) 顕彰

#### 【凡例】

- ・事業KPIについては、原則として、政策的経費のみ記載している。
- ・事業KPIの基準及び目標に係る時点は、第2次茨城県総合計画（R4.3月策定）の計画期間と整合している。

#### 【事業の評価】

- |        |        |                   |
|--------|--------|-------------------|
| ・目標達成度 | 100%以上 | 「期待以上の成果」         |
| ・      | 80～99% | 「概ね期待通りの成果」       |
| ・      | 50～79% | 「期待した成果を下回っている」   |
| ・      | 50%未満  | 「期待された成果があがっていない」 |

## I 人材の育成

### 1 施策の方向

文化の担い手や次世代を担う子どもたちの育成とともに、文化に関する教育の充実を図る。

### 2 課題

本県文化の裾野を広げていくためには、柔軟で感受性の優れた年代の子どもたちをはじめ、多くの県民が、質の高い文化を鑑賞・体験する機会の充実を図る必要がある。

また、少子高齢化や過疎化が進む中、文化芸術活動の担い手の高齢化や後継者不足が懸念されており、芸術家や文化団体の活躍する場や発表の機会を提供するなど、文化の担い手を育成する機会の一層の充実を図る必要がある。

### 3 県の取組状況

#### (1) 文化の担い手の育成及び確保

事業名	事業内容	R4年度実績	R5年度取組状況	今後の方針・方向性
①茨城県芸術祭★1 (生活文化課)  決算額等(千円) R4 決算:16,340 R5 当初:17,000	県民の優れた芸術創作活動の成果を発表・展示し、広く県民へこれらを鑑賞する機会を提供することにより、県民の文化に対する意識の醸成を図るとともに、心豊かで潤いのある生活を実現することができるよう芸術祭を開催する。	・期間 令和4年10月1日 ～令和5年1月7日  ・場所:ザ・ヒロサワ・シティ会館等  ・参加者数:4,839人  入場者数:21,472人 計 26,311人  ※26 催事中1 催事が中止。	・期間:令和5年9月30日 ～令和6年1月7日  ・場所:ザ・ヒロサワ・シティ会館等	各団体が感染防止対策等を講じた上で県芸術祭の催事を開催できるよう、R3より補助金額を増額(1,500千円)し、感染防止対策に要する経費を含む17,000千円を補助額としている。(R5 継続)

事業名	事業内容	R4年度実績	R5年度取組状況	今後の方針・方向性
②水戸室内管弦楽団メンバーによる器楽セミナー★2 (生活文化課)  決算額等(千円) R4 決算:3,420 R5 当初:3,980	県内の高校生以上の楽器奏者を対象に、世界的な演奏家である水戸室内管弦楽団によるレッスンを実施し、演奏技術の向上を図る。さらに、レッスン終了後には、水戸芸術館等における成果発表コンサートを実施し、受講生の集客力向上及びモチベーション向上につなげるとともに、県民に質の高い演奏を鑑賞する機会を提供する。	管楽器アンサンブル・セミナー ・開催日:令和5年1月22日 ・場所:水戸芸術館 ・受講団体:4団体(19人) ・来場者数:209人  公開レッスン&ミニコンサート ・開催日:令和5年2月19日 ・場所:ノバホール ・受講団体:1団体(29人) ・来場者数:271人	・開催日:令和6年1~3月 ・場所:水戸芸術館、日立シビックセンター ・受講団体:県内の管打楽器奏者、 県内吹奏楽・オーケストラ団体  事業内で県内の高校生以上の管打楽器奏者を対象とした管楽器アンサンブル・セミナーと吹奏楽・オーケストラ公開レッスン&ミニコンサートを実施。	管楽器アンサンブル・セミナーは普段貸館をしていない水戸芸術館で実施する。 吹奏楽・オーケストラ公開レッスン&ミニコンサートは5年間かけて県内5地域を巡回する計画であり、今年度は県北地域を中心に活動する団体を募集し、日立市の日立シビックセンターで実施する。
③文化芸術体験出前講座★2 (生活文化課)  決算額等(千円) R4 決算:27,369 R5 当初:28,111	児童生徒をはじめとする県民が本格的な文化芸術に触れる機会を提供し、将来の担い手や鑑賞者を育成するとともに、若手演奏家や文化芸術活動団体等に活躍の場を提供する。また、文化芸術活動団体と学校及び市町村との連携・協力体制構築の促進を図る。	文化芸術体験出前講座 実施講座数:109講座 参加者数:14,840人 [学校枠]対象:小中高校及び特別支援学校 ・音楽 【68講座】 ・伝統文化(茶道・華道) 【15講座】 ・美術(書・陶芸・絵画・リボンアートホール) 【17講座】 ・能楽 【4講座】 ・食文化 【2講座】 [一般枠]対象:一般県民 ・音楽 【1講座】 ・美術(絵画) 【2講座】	文化芸術体験出前講座 実施講座数:116講座 [学校枠]対象:小中高校及び特別支援学校 ・音楽 【68講座】 ・伝統文化(茶道・華道) 【16講座】 ・美術(書・陶芸・絵画・リボンアートホール) 【20講座】 ・能楽 【4講座】 ・食文化 【3講座】 [一般枠]対象:一般県民 ・音楽 【4講座】 ・能楽 【1講座】	小中高校及び特別支援学校での講座実施に加え、県内文化施設等での一般県民向けの講座実施数を増やし、より受講対象を拡大していく。

事業名	事業内容	R4年度実績	R5年度取組状況	今後の方針・方向性
④新人演奏会 (生活文化課) 決算額等(千円) R4 決算:2,000 R5 当初:2,000	本県出身等の新人演奏家に発表の機会を提供して演奏技術の向上を図り、もって地域音楽活動の指導者育成及び本県の音楽文化の振興・向上に資する。	第 48 回茨城県新人演奏会 期日:令和 4 年 6 月 19 日(オーディション) 令和 4 年 9 月 18 日(本演奏会) 場所:ザ・ヒロサワ・シティ会館大ホール オーディション参加者数:33 名 本演奏会出演者数:16 名 新人賞 2 名、奨励賞 1 名	第 49 回茨城県新人演奏会 期日:令和 5 年 6 月 11 日(オーディション) 令和 5 年 9 月 24 日(本演奏会) 場所:ザ・ヒロサワ・シティ会館大ホール オーディション参加者数:32 名 本演奏会出演者数:16 名 (オーディション合格者)	オーディション参加者を増加させること、本演奏会に出演する本県ゆかりの演奏家の活躍を広く県民に発信することを目的として、引き続き積極的な広報活動を行う。
⑤いばらきの郷土民俗 芸能アーカイブス (民俗文化財活性促進 事業) (文化課) 決算額等(千円) R4 決算: 0 R5 当初:200	県内に伝わる国・県・市町村指定等の民俗文化財の映像(民俗芸能等)を収集し、YouTube 上で公開することにより、県民の当該文化財に対する理解と認識を深め、保護意識等の高揚を図る。 ※対面型の「茨城県郷土民俗芸能の集い」からオンライン型の「いばらきの郷土民俗芸能アーカイブス」へ変更(R3～)	国、県及び市指定の民俗文化財の映像の収集及び公開 ・対象文化財 約 250 件 ・公開文化財 9 件 ※デジタルデータを所有している市町村や団体が少ないことや、コロナ禍で行事等が中止になり新たに映像を収録することができなかったため、公開数は前年度と同じ9件にとどまった。	新型コロナウイルスの5類感染症への移行により、民俗芸能等の行事の再開が見込まれることから、あらためて映像の収録・提供を依頼する。 収集できた映像を YouTube で公開し、郷土民俗芸能の魅力を県内外に発信する。 ・対象文化財 約 250 件	With コロナ時代に即した民俗文化財の一つの公開方法として、収集・公開する映像の充実を図りながら、「いばらきの郷土民俗芸能アーカイブス」を展開していく。
⑥子ども伝統文化フェスティバル★4 (生活文化課) 決算額等(千円) R4 決算:— R5 当初:—	伝統文化活動を行う子どもや大人に日頃の練習の成果を発表する機会を提供し、発表する子どもたちの意欲向上、観覧する県民への興味喚起を図る。 ※伝統文化総合支援事業の中で実施 (17 ページ参照)	子ども伝統文化フェスティバル(年 1 回) ・開催日:令和 4 年 11 月 12 日 ・会場:県立歴史館 ・参加団体数:9 団体 ・来場者数:1,150 人	子ども伝統文化フェスティバル(年 2 回) [龍ヶ崎市] ・開催日:令和 5 年 10 月 29 日 ・会場:農業公園豊作村 ・参加団体数:4 団体程度 [水戸市] ・開催日:令和 5 年 11 月上旬 ・会場:県立歴史館 ・参加団体数:10 団体程度	子どもたちにとっての発表の場を創出するとともに、多くの県民が伝統文化団体の活動に触れる機会を提供する。

事業名	事業内容	R4年度実績	R5年度取組状況	今後の方針・方向性
⑦笠間陶芸大学校事業 (技術革新課) 決算額等(千円) R4 決算:7,751 R5 当初:8,373	陶芸に関する専門的な知識及び高度で多様な技術等を習得させる。 ・陶芸学科 2年制、定員1学年12名 ・研究科 1年制、定員3名	令和4年度は陶芸学科22名、研究科3名の合計25名が在学し、特命教授を中心としたカリキュラムや各種広報活動を実施した。その他、陶芸従事者を対象に、作陶における技術力の向上および課題解決を目的に陶芸技術者専門研修(修了15名)を行い、指導を行った。	令和5年度は陶芸学科24名、研究科3名の合計27名が在学し、引き続き、特命教授を中心としてカリキュラムの充実を図るとともに、全国から優秀な人材を集めるため、積極的なPRを実施する。その他、陶芸従事者を対象に、技術力向上・課題解決を目的に陶芸技術者専門研修を実施する。	コロナ禍で縮小していた特命教授の大学校訪問などのPR活動・入学者募集のためのオープンキャンパス等を積極的に実施する。
⑧食生活改善地区組織育成・強化推進事業 (健康推進課) 決算額等(千円) R4 決算:1,818 R5 当初:1,904	地域における食を通じた健康づくりの取組を推進するため、地区組織リーダー育成研修会を開催する。 協議会が実施する食生活改善活動の企画や連絡調整、組織の充実強化を図るための助成を行う。	地区組織リーダー育成研修会の開催 1 市町村会長等研修会 ・実施日:9月13日・15日 ・方法:ハイブリッド研修 ・参加者:212人 2 食生活改善推進員リーダー育成研修会 ・実施日:12月6日(集合研修・録画) (配信期間12月12日～翌2月10日) ・参加者:320人	事務局との調整のもと、地区組織リーダー育成研修会開催に向け事業準備中。 1 市町村会長等研修会 2 食生活改善推進員リーダー育成研修会	食生活改善推進員のリーダー育成のため、会場での開催とオンラインを併用し、会員が参加しやすい環境整備に努め、地区組織の育成を支援していく。

(2) 次世代を担う子どもたちの育成

事業名	事業内容	R4年度実績	R5年度取組状況	今後の方針・方向性
<p>①近代美術館美術普及事業 (文化課)</p> <p>決算額等(千円)</p> <p>R4 決算:30,239</p> <p>R5 当初:31,226</p>	<p>県民の美術への親しみや関心を深めるため、普及活動を積極的に実施する。</p>	<p>1 学校・地域との教育連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○アウトリーチ事業「ハロー！ミュージアム」 館外 49 日、館内 31 日、オンライン 38 日</li> <li>○教育普及アートバス事業:26 校 ※企業パートナーシップ事業の一環</li> <li>○高校生特派員事業:16 校</li> <li>・ギャラリートークの実施:2 回</li> <li>・ワークショップの実施:2 回</li> <li>・美術展の開催:1 回</li> <li>○職場体験の受入:3 校</li> <li>○インターンシップの受入:3 校</li> <li>○協定に基づく茨城大学との連携</li> <li>・インターンシップ授業の実施:6 回</li> <li>・館内授業の実施:4 回</li> <li>・館内美術館アカデミー開催:2 回</li> <li>・ワークショップの実施:2 回</li> <li>○博物館実習:1 回</li> </ul> <p>2 アートフォーラム等の運営</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・パネル、画材等による展示活動:4 回</li> <li>・映像、美術図書等による情報提供</li> <li>・創作コーナーの設置:2 回</li> </ul>	<p>1 学校・地域との教育連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○アウトリーチ事業「ハロー！ミュージアム」</li> <li>○教育普及アートバス事業:24 校 ※企業パートナーシップ事業の一環</li> <li>○高校生特派員事業:11 校</li> <li>○職場体験・インターンシップの受入</li> <li>○協定に基づく茨城大学との連携</li> <li>○博物館実習の受入:1 回</li> </ul> <p>2 アートフォーラム等の運営</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・パネル、画材等による展示活動:4 回</li> <li>・映像、美術図書等による情報提供</li> <li>・創作コーナーの設置</li> </ul>	<p>・イベントの参加人数や参加方法(事前申込)等は基本的にコロナ禍前に戻す。</p> <p>・ギャラリートークを再開していく(代替の美術講座は取り止め)。</p> <p>・対話型美術鑑賞教育の推進。</p>

事業名	事業内容	R4年度実績	R5年度取組状況	今後の方針・方向性
		<p>3 美術講演・講座等の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・企画展関連美術講演・講座:9回</li> <li>・企画展関連実技講座・ワークショップ:2回</li> <li>・その他企画展関連イベント:1回</li> <li>・所蔵品展対話型鑑賞:10回</li> <li>・ミュージアムコンサート:2回</li> <li>・ベビー・キッズ対象対話型鑑賞:11回</li> </ul> <p>4 美術館情報交流ネットワーク事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・美術館情報交流ネットワーク拠点機能の整備、所蔵品検索システム運用、モバイル機器への情報提供等</li> </ul>	<p>3 美術講演・講座等の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・企画展関連美術講演・講座</li> <li>・企画展関連実技講座・ワークショップ</li> <li>・所蔵品展対話型鑑賞:12回</li> <li>・ベビー・キッズ対象対話型鑑賞:9回</li> </ul> <p>4 美術館情報交流ネットワーク事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>デジタル映像システム整備、HP 運営等</li> </ul>	

事業名	事業内容	R4年度実績	R5年度取組状況	今後の方針・方向性
②天心記念五浦美術館美術普及事業 (文化課)  決算額等(千円) R4 決算:3,647 R5 当初:3,647	県民に美術への親しみや関心を深めるため、多様な普及活動を積極的に実施する。	1 学校・地域との教育連携 ○日本画トランクの貸出:47 件 ○学校団体受入:27 校 ○近隣学校による展覧会の開催等: ・第 31 回北茨城市小中学校美術展覧会 15 校展示、2,253 人入場 ・県北地区高等学校合同美術展 10 校展示、641 人入場 ○茨城大学との連携 ・実技講座、ワークショップ:1回 2 岡倉天心記念室ガイドツアー 参加者:998 人 ※記念室音声ガイドのネット配信:随時 3 美術講演・講座等の開催 ・講演会:2 回 ・ギャラリートーク:7回 ・作品解説会:10 回 ・ミュージアムシアター:12 回 ・ミュージアムコンサート:3 回 ・リモート・ワークショップ: 2 回 ・アートツアー for kids:3 回 ・ワークショップ:6 回 ・七夕イベント:1 回 ・東京美術学校制服試着体験:2 回	1 学校・地域との教育連携事業 ○日本画トランクの貸出:随時 ○来館学校・団体へのガイダンス ○近隣学校の展覧会の開催等 ○茨城大学との連携 ・実技講座の開催:1 回 ・講演会:1 回  2 岡倉天心記念室ガイドツアー :2 回/1 日 ※記念室音声ガイドネット配信:随時 3 美術講演・講座等の開催 ・講演会:1 回 ・作品解説会 企画展中 1~2 回 ・ミュージアムシアター:12 回 ・ミュージアムコンサート:3 回 ・ワークショップ:3 回 ・アートツアー for kids:3 回 ・日本画実技講座:2 回 ・七宝焼実技講座:1 回 ・東京美術学校制服試着体験:2 回	・新型コロナの5類移行後のイベント等の緩和と感染対策のバランスや感染状況を考慮しながら、できるだけ多くの人に参加いただくとともに、安心感のあるイベント実施を計画する。 ・日本画をはじめ伝統的美術・技法を体験できる講座やワークショップを計画する。 ・東京美術学校制服を活用したイベントの実施 ・関連市町村や教育機関等と協働した館外イベントの実施

事業名	事業内容	R4年度実績	R5年度取組状況	今後の方針・方向性
③陶芸美術館美術普及事業 (文化課)  決算額等(千円) R4 決算:4,642 R5 当初:4,478	県民に美術への親しみや関心を深めるため、多様な普及活動を積極的に実施する。	1 学校・地域との教育連携 ・「かさま発見！スタンプラリー」事業： 7月21日～8月31日、459人利用 ・陶芸ボックス貸出:2団体、70人利用 ・笠間市小中学校美術展： 11月26日～27日、2,954人観覧 ・高校生茶道部交流会： 1月29日、17校、169人参加 2 美術講演・講座等の開催 ・美術講演会:3回、159人参加 ・ワークショップ:4回、75人参加 ・ギャラリートーク:7回、287人参加 ・夏休み子供向けギャラリートーク： 6日間、各4回、36人参加 ・県民の日呈茶会： 11月13日、55人参加 ・波山工房ロケセット呈茶会： 1月28日、5席、50人参加 ・図書館との連携(3月) 企画展関連図書の展示	1 学校・地域との教育連携 ・「かさま発見！スタンプラリー」事業： 7月～8月 ・陶芸ボックスの貸出:随時 ・笠間市小中学校美術展の開催:11月下旬 ・高校生茶道部交流会:1月下旬～2月上旬  2 美術講演・講座等の開催 ・美術講演会:年1回 ・ワークショップ:5回 ・ギャラリートーク:5回 ・夏休み子供向け展示解説 ・呈茶会:11月 ・図書館との連携:4、5月 企画展関連図書読み聞かせ 企画展関連図書の展示	・電子媒体を利用した積極的な広報活動を展開する。 ・収蔵品によるタッチ&トークの開催

事業名	事業内容	R4年度実績	R5年度取組状況	今後の方針・方向性
④自然博物館教育 普及事業 (文化課)  決算額等(千円) R4 決算:2,718 R5 当初:3,037	自然講座や野外での自然観察会、野外施設を活用した各種体験教室、博物館資料を遠隔地の学校等で展示・公開する「移動博物館」など体験型の教育普及事業を実施し、自然への興味関心を高めるとともに、博物館活動の理解を深める。	1 自然講座、自然観察会、体験教室等の開催 ○自然講座:11回 ○大学との連携:6回 ○学芸員によるサイエンストーク:5回 ※1回中止 ○自然観察会:7回 ※荒天により1回中止 ○学芸員ネイチャーガイド:34回 ○わくわくディスカバリー:7回 2 移動博物館 ・県内の小中学校・特別支援学校:8校 ・社会教育施設:3施設 3 ジュニア学芸員育成事業 ・中・高校生が博物館職員の支援のもと各分野のテーマについて学習した。 ・新規ジュニア学芸員認定者数:27人 ・ジュニア学芸員登録者数:17人	1 自然講座等 ・自然ラボ(講座):8回 ・サイエンストーク:6回 2 自然観察会等 ・自然ラボ(観察会):10回 ・ネイチャーガイド:毎土曜日(第3土曜日を除く) 3 体験教室等 ・サンデーサイエンス:毎日曜日 4 移動博物館 ・県内の小中学校・特別支援学校:8校 ・社会教育施設:2会場 5 ジュニア学芸員育成事業 ・ジュニア学芸員養成講座(4月~9月) 実施中:20人 ・ジュニア学芸員登録者数:24人	・新型コロナの5類移行後のイベントの緩和と感染対策とのバランスや感染状況を考慮しながら実施する。 ・好評を得ているイベントは対面とオンラインとのハイブリッドで実施することで、多くの人が参加できるように配慮していく。

【再掲】

- ・文化芸術体験出前講座(生活文化課)
- ・子ども伝統文化フェスティバル(生活文化課)



事業名	事業内容	R4年度実績	R5年度取組状況	今後の方針・方向性
③いばらきっ子郷土 検定事業 (生涯学習課) 決算額等(千円) R4 決算:8,672 R5 当初:2,529	中学2年生を対象に茨城県独自の郷土検定を行い、子どもたちが楽しみながら本県の伝統や文化を学ぶことにより、子どもたちの郷土への愛着心や誇りに思う気持ちを育む。	1 市町村大会 ・開催期間:令和4年11月 ・参加校数:239校、参加者数:22,166人 2 県大会 ・日時:令和5年2月4日 9:30~13:50 ・場所:ザ・ヒロサワ・シティ会館大ホール ・出場校数:45校(市町村代表44校、国・県・私立代表校1校)、参加者数:約620人 3 U-22 オンライン大会(一般の部) ・開催期間:令和4年12月10日 ・参加チーム:5チーム、参加者数:9人 4 システム開発 ・利用者が自主的にPC(タブレット)を活用し、郷土学習を進めることができるシステム「郷土検定ドリル」を構築。	1 市町村大会 ・開催期間:令和5年11月 ・参加校数:約240校 ・参加者数:約22,000人 2 県大会 ・開催日:令和6年2月3日 ・参加予定者数:約750人	一人一人の教育的ニーズや理解度に応じた、自主的かつ継続的な郷土学習を可能にする「郷土検定ウェブサイト」や「郷土検定ドリル」の活用を推進する。
④副読本を活用した 小中学校での地域の 歴史や文化学習 (義務教育課) 決算額等(千円) R4決算:— R5当初:—	学習指導要領に基づき、各市町村において、身近な地域の歴史、特色ある伝統や文化等を取上げた副読本を作成し、社会科の授業等で活用している。	小学校3年生、4年生、5年生の授業で活用 ・44/44 市町村	小学校3年生、4年生、5年生の授業で活用 ・44/44 市町村	各市町村において、定期的に副読本の改訂が行われており、身近な地域の歴史や文化の学習における中心資料として、社会科の授業等で活用していく。

#### 【再掲】

- ・文化芸術体験出前講座(生活文化課)
- ・近代美術館美術普及事業(文化課)
- ・自然博物館美術普及事業(文化課)

## 4 事業KPI

(1)「県芸術祭の参加者数」(単位:人) ★1 目標達成度【期待以上の成果】

	2020(基準) R2	2022 R4	2023 R5	2024 R6	2025(目標) R7
目標値	—	26,000	35,000	36,000	37,000
実績値	16,824	26,311			
達成率	—	101.2%			

【事業 KPI を構成する関連事業】

- ・ I (1)① 茨城県芸術祭

(2)「関連事業の参加者数」(単位:人) ★2 目標達成度【期待以上の成果】

	2020(基準) R2	2022 R4	2023 R5	2024 R6	2025(目標) R7
目標値	—	11,000	13,000	13,000	13,000
実績値	9,574	14,888			
達成率	—	135.3%			

【事業 KPI を構成する関連事業】

- ・ I (1)② 水戸室内管弦楽団メンバーによる楽器セミナー
- ・ I (1)③ 文化芸術体験出前講座

## 5 事業の評価

県芸術祭では、令和3年度の参加者数17,951人を大きく上回る26,311人が参加し、「県芸術祭の参加者数」の達成率は101.2%となった。また、「関連事業の参加者数」についても、達成率は135.3%と大幅に目標値を上回り、2項目の目標達成度はいずれも「期待以上の成果」となった。

県芸術祭においては、新型コロナウイルス感染症拡大防止に要する経費を補助し、コロナ禍においても継続して各催事を実施できるよう努めた。さらに、関連事業の器楽セミナーにおいては、当該事業を開始した平成24年度以来となる水戸市外での開催を実現したほか、文化芸術体験出前講座においては、感染症対策を講じながら講座数を拡大し、より幅広い地域での事業の実施を図った。

## 6 今後の展開・方向性

感染症対策を講じながら、県民が文化芸術を鑑賞・体験できる機会を提供し、芸術家等の活動機会の確保と、担い手の育成に努めていく。また、文化芸術は人格や感性を育むものであることから、学校や文化団体等との連携を図りながら、子どもの頃から文化に触れる機会を提供し、その後の鑑賞・体験の習慣化に繋げていく。

## Ⅱ 文化の振興

### 1 施策の方向

茨城の文化を高め、その魅力を国内外に発信し、本県文化のブランド力を確立する。また、新たな文化を創造し、地域の活性化を図る。

### 2 課題

文化芸術の振興にあたっては、各文化団体の自主性や創造性を尊重しつつ、優れた創作活動に対して効果的な支援を行っていく必要がある。

また、広く県民に認知されていない伝統文化もあることから、それらの掘り起こしを行いながら、発表の場の提供や魅力発信など、支援の充実を図る必要がある。

### 3 県の取組状況

#### (1) 芸術の振興

事業名	事業内容	R4年度実績	R5年度取組状況	今後の方針・方向性
①各文化活動への後援 (生活文化課) 決算額等(千円) R3 決算:- R4 当初:-	県以外の者が主催して行う催事等で文化振興に寄与するものについて、県が後援していることを広く県民に知らせることによって、催事等に信用を付与するとともに文化意識の高揚を図り、文化の振興を促進する。	後援承認件数:124 件	後援承認件数:29 件 (R5 年 5 月末現在)	—
②県民文化センター管理委託 (生活文化課)★3 決算額等(千円) R4 決算:200,336 R5 当初:221,383	県民の文化芸術活動を支える拠点施設として、本県の文化芸術の振興と県民教養の高揚を推進していく。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者数:339,509 人</li> <li>・参加創造事業: いばらき民応援コンサート等 7事業 入場者数 2,956 人</li> <li>・鑑賞事業:小林愛実 ピアノリサイタル等 19 事業 入場者数 16,202 人</li> <li>・備品購入:小ホール舞台幕など</li> <li>・修繕工事:大ホール客席床下壁補修工事など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加創造事業: 県内巡回アウトリーチ事業等 8 事業</li> <li>・鑑賞事業: NHK 交響楽団特別公演等 22 事業</li> <li>・備品購入:移動用音響操作卓など</li> <li>・修繕工事: 集会室5号内装改修工事など</li> </ul>	R4 利用者数は R3 年度の約 1.4 倍となるなど増加しているものの、コロナ禍前までには至っていない。R5.7 月に開館した水戸市民会館による影響を分析しながら、県民文化センターの利用促進を図っていく。

事業名	事業内容	R4年度実績	R5年度取組状況	今後の方針・方向性
③陶芸美術館資料整備 (文化課) 決算額等(千円) R4 決算: 21,880 R5 当初: 4,221	人間国宝・文化勲章受章者等の作品をはじめ、日本近現代陶芸の全貌を通観できるよう、優れた美術資料の継続的な購入を進める。	次のとおり美術作品を購入した。 ・工芸 富本 憲吉(磁器) ほか 28 件	収蔵品の充実を図るべく、工芸作品を購入予定。	引き続き、事業計画どおり実施
④近代美術館常設展 (文化課) 決算額等(千円) R4 決算:4,803 R5 当初:4,868	常設展示室において、それぞれ所蔵作品をテーマに応じて展示する。	所蔵作品の中から日本近代美術の秀作を選び、近代美術館で4期展示公開した。 1期 4月20日～6月19日 2期 前期6月24日～8月7日 後期 8月9日～9月19日 3期 10月22日～12月18日 4期 前期:12月24日～2月12日 後期:2月15日～4月9日 入館者数: 3,516人	所蔵作品の中から近代美術の秀作を選び、近代美術館で5期展示する。 1期 4月12日～6月11日 2期 前期:6月17日～7月30日 後期:8月1日～9月18日 3期 10月21日～12月17日 4期 12月20日～2月18日 5期 2月22日～4月21日	従来のGSミニガイド、学芸員による対話型ギャラリートークの再開に加え、子供向け鑑賞講座の開催や、展示室内 Wi-Fi 導入に伴うモバイル機器の導入を目指す。また、参加型の展示も試みるなど多様な鑑賞を提案する。
⑤近代美術館企画展 (文化課) 決算額等(千円) R4 決算:38,714 R5 当初:46,936	企画展示室において、企画展を開催する。	1 「若冲と京の美術 京都 細見コレクションの精華」 会期:令和4年4月23日～6月12日 入館者数:22,518人 2 「どっちがどっち? いわいとしお×岩井俊雄—『100 かいだてのいえ』とメディアアートの世界—」 会期:令和4年7月2日～9月19日 入館者数:28,575人 3 「辻永 ふたつの顔を持つ画家 油彩と植物画」 会期:令和4年10月25日～12月11日 入館者数:6,183人 4 「戦後日本版画の展開—照沼コレクションを中心に」 会期:令和4年12月24日～令和5年2月5日 入館者数:3,777人 5 「速水御舟展」 会期:令和5年2月21日～3月26日 入館者数:12,996人	1 「猪熊弦一郎展『いのくまさん』」 会期:令和5年4月15日～6月25日 2 「土とともに 美術にみる〈農〉の世界 —ミレー、ゴッホ、浅井忠から現代のアーティストまで—」 会期:令和5年7月8日～9月3日 3 「国吉康雄展 ～安眠を妨げる夢～福武コレクション・岡山県立美術館のコレクションを中心に」 会期:令和5年10月24日～12月24日 4 「英国キュー王立植物園 おいしいボタニカル・アート 食を彩る植物のものがたり」 会期:令和6年2月23日～4月14日	多くの入場者を期待できそうな企画展、親子で楽しめる企画展、所蔵品を活用する企画展、作品研究の成果として開催する企画展等、予算のバランスを鑑みつつ、バラエティに富む内容の企画展を計画していく。

事業名	事業内容	R4年度実績	R5年度取組状況	今後の方針・方向性
⑥陶芸美術館常設展 (文化課) 決算額等(千円) R4 決算:4,723 R5 当初:4,625	1 コレクション展 「近現代日本陶芸の展開」をテーマに、明治期から現在までの日本陶芸史を概観できるよう、所蔵品を中心に展示しているほか、板谷波山と松井康成については、特集展示コーナーを設け、紹介する。 2 テーマ展 現在活躍中の陶芸家の作品を中心に様々なテーマを設け、展示紹介する。	<b>【第1展示室】</b> 1 コレクション展Ⅰ・新収蔵品展 会期:令和4年5月18日～9月25日 2 コレクション展Ⅱ_笠間焼 250年記念・日本遺産認定記念_笠間と益子の作家たち 会期:令和4年9月27日～次年度 <b>【第2展示室】</b> 1 新収蔵品展(第2会場) 会期:令和4年5月18日～7月18日、 9月6日～9月14日 2 カメラを手にした八木一夫 会期:令和4年12月14日～令和5年3月12日 3 ムーミンの食卓とコンヴィヴィアル 会期:令和5年3月18日～次年度 常設展入館者数:4,492人	<b>【第1展示室】</b> 1 コレクション展Ⅰ・新収蔵品展 会期:令和5年5月10日～10月22日 2 コレクション展Ⅱ・Ⅲ 会期:令和5年10月25日～次年度(予定) <b>【第2展示室】</b> 1 没後20年 松井康成特集 会期:令和5年6月21日～7月17日 2 浅野榮一の江戸小紋(仮称) 会期:令和5年9月6日～12月3日 3 駒井哲郎・中村直人展(仮称) 会期:令和6年1月2日～次年度	展示解説員によるギャラリートークの実施。
⑦陶芸美術館企画展 (文化課) 決算額等(千円) R4 決算:24,873 R5 当初:34,806	企画展示室において、企画展等を開催する。	1 「北澤美術館名品展 エミール・ガレとドーム」 会期:令和4年2月5日～5月8日 入館者数:5,926人(R4分) 2 「井上雅之 描くように造る」 会期:令和4年6月11日～8月28日 入館者数:6,023人 3 「笠間焼250年記念 欲しいがみつかる・うつわ展Ⅱ -笠間と益子-」 会期:令和4年9月17日～12月11日 入館者数:17,889人 4 「生誕150年記念 板谷波山の陶芸」 会期:令和5年1月2日～2月26日 入館者数:10,752人 5 「フィンランド・ガラスアート輝きと彩りのモダンデザイン/ムーミンの食卓とコンヴィヴィアル」 会期:令和5年3月18日～6月11日 入館者数:2,077人(R4分)	1 「フィンランド・ガラスアート 輝きと彩りのモダンデザイン/ムーミンの食卓とコンヴィヴィアル」 会期:令和5年3月18日～6月11日 2 「未来へつなぐ陶芸ー伝統のチカラ展」 会期:令和5年7月8日～8月27日 3 「皇室と近代の陶磁 三の丸尚蔵館名品展」 会期:令和5年9月16日～12月10日 4 「ガラスアート・ライジング 藤田、リトルトン、リベンスキーと世界の作家」 会期:令和6年1月2日～4月7日	触れる展示等の展示方法の導入。

事業名	事業内容	R4年度実績	R5年度取組状況	今後の方針・方向性
⑧フィルムコミッション 推進事業 (観光物産課) 決算額等(千円) R4 決算:23,120 R5 当初:23,851	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ロケ誘致</li> <li>・ロケ支援</li> <li>・ロケツーリズムの推進</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 県内撮影支援作品数:544 作品※</li> <li>2 県内撮影日数:1,046 日※</li> <li>3 ロケ地マップ Vol.16 の発行</li> <li>4 ロケ地バスツアーの実施 春:実施せず 秋:いばらきよいとこプランにて実施</li> <li>5 映像関係事業者と連携した本県 PR 企画の実施 ※R3年度実績</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ロケ地マップ Vol.17 の発行</li> <li>2 ロケ地バスツアーの実施</li> <li>3 映像関係事業者と連携した本県 PR 企画の実施 本県で撮影した映画の公開に合わせ対象の市町村と共同でロケ地の展示・活用を実施</li> </ol>	積極的に本県ロケ地を PR し、コロナ前の実績に回復させる。
⑨茨城県魅力映画支援事業(観光物産課) 決算額等(千円) R4 決算:1,435 R5 当初:14,182	本県を舞台題材にした作品の誘致	<p>魅力映画支援によるロケ地の聖地化</p> <p>(1)海外の映像作品誘致に向けた茨城ロケ地プロモーション</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・東京国際映画祭(オンライン開催)、香港フィルムアート(実地開催)への出展</li> </ul> <p>(2)魅力ある国内外の映像作品の支援</p> <p>※新型コロナの影響で未実施</p>	<p>魅力映画支援によるロケ地の聖地化</p> <p>(1)海外の映像作品誘致に向けた茨城ロケ地プロモーション</p> <p>(2)魅力ある国内外の映像作品の支援</p>	コロナ禍で R4 年度に実施できなかったロケーションツアー等を行い、魅力ある映像作品の誘致・支援を行う。

【再掲】

・茨城県芸術祭(生活文化課)

## (2) 伝統文化の継承及び発展

事業名	事業内容	R4 年度実績	R5 年度取組状況	今後の方針・方向性
① 伝統文化総合支援事業★4 (生活文化課) 決算額等(千円) R4 決算:5,500 R5 当初:5,500	県内各地で行われている伝統的な行事や民俗芸能などの伝統文化について、その継承等に取り組む伝統文化団体への発表機会の提供や情報発信の支援等を行う。 ※子ども伝統文化フェスティバル (4 ページ参照)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・伝統文化団体と催事主催者のマッチング(13 団体)</li> <li>・小学校放課後子ども教室での伝統文化体験会(2 団体)</li> <li>・担い手募集サイトでの情報発信(16 団体)</li> <li>・子ども伝統文化フェスティバル(年1回 9 団体参加)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・伝統文化団体と催事主催者のマッチング</li> <li>・放課後子ども教室での伝統文化体験会</li> <li>・担い手募集サイトでの情報発信</li> <li>・子ども伝統文化フェスティバル(年2回)</li> </ul>	伝統文化団体が抱える「未来の担い手不足」や「発表機会の確保」の課題を解決するため、子どもを対象とした学校での伝統文化体験会や、ウェブサイト等を活用した後継者募集に取り組む。また、子ども伝統文化フェスティバルの開催数を増やす。
② 東関東の盆綱総合調査事業(民俗文化財活性化促進事業) (文化課) 決算額等(千円) R4 決算:999 R5 当初: -	茨城・千葉両県のほか九州北部など、広域にわたって分布する盆綱の特色や歴史的価値を明らかにし、記録を残すことにより、今後の保存と伝承を図るための基礎的な資料とする。 また、本県の民俗習慣の特性に関する理解と啓発に役立てる。 調査期間は平成 31 年度(2019 年度)から令和 3 年度(2021 年度)まで。	調査報告書を 300 部作成し、県内の大学及び各市町村の資料館・図書館へ配付した。	市町村文化財行政担当者会議(5月26日)で調査報告書を配付するとともに、県教育委員会ホームページに掲載した。	各所に配付した調査報告書の活用を促すとともに、ホームページ等により県内外に「盆綱」を紹介し、保存・継承を図っていく。

### 【再掲】

- ・いばらきの郷土民俗芸能アーカイブス事業(文化課)
- ・子ども伝統文化フェスティバル(生活文化課)

### (3) 生活文化等の振興

事業名	事業内容	R4 年度実績	R5 年度取組状況	今後の方針・方向性
①「茨城をたべよう」県産品販売・PR促進事業 (販売流通課) 決算額等(千円) R4 決算:3,500 R5 当初:3,500	県内において進めてきた地産地消の活動から取組を拡充し、生産者、事業者、消費者等が一致協力して県産農林水産物の利用を促進するとともに、県産農林水産物の魅力を広く発信し、県内外における認知度向上と消費拡大を図ることを目的とする。  ※「茨城をたべよう運動推進協議会」は、令和3年度から「いばらき食の魅力発信協議会」へ改組した。	1 県内外への県産農林水産物の PR ・県内全小学 5 年生に対し、県内の主要農産物を紹介したクリアファイルの配布 ・市町村等が実施する農林水産物関連イベント情報の「いばらき食と農のポータルサイト」への掲載、ノベルティグッズの提供等 ・「いばらき食と農のポータルサイト」やメディアを活用した PR ・「茨城をたべよう」シンボルマーク及びノベルティグッズを活用した PR ・協議会会員と連携した各種イベントにおける PR  2 協議会会員相互の連携・交流促進 ・会員を対象としたセミナー及び交流会の開催 令和5年1月 26 日(木) 茨城県庁 11 階アトリウムにて開催 セミナー参加者:32 名、交流会参加者:約 120 名(45 団体) ・協議会会員相互の連携を目的としたマッチング事業の実施  3 新規会員獲得推進 ・「いばらき食と農のポータルサイト」内に協議会ページを作成、活動内容の周知	1 県産農林水産物の PR ・「茨城をたべよう」シンボルマーク及びノベルティグッズを活用した PR(県内外向け) (協議会会員へのフラッグ・のぼり、ノベルティグッズ等の配布) ・市町村等が実施する農林水産物関連イベント情報の「いばらき食と農のポータルサイト」への掲載、ノベルティグッズの提供等(県内外向け) ・協議会会員と連携した各種イベントにおける PR(県外向け) (県外の商業施設、宿泊施設、レストラン等で開催するイベントにおける PR の実施等) ・商談展示会「スーパーマーケット・トレードショー2024」への出展(県外向け) ・県内小学5年生に対し、主要農産物を紹介するクリアファイルを配布(県内向け)  2 協議会員の活動促進 ・商談展示会「スーパーマーケット・トレードショー2024」への出展(販路開拓支援) ・協議会会員を対象としたセミナー及び交流会の開催(交流促進) ・協議会会員相互のマッチング(県産農林水産物を使用した商品の共同開発支援等) ・「いばらき食と農のポータルサイト」の協議会ページの活用(会員の活動促進)	協議会会員同士の連携、交流促進(マッチング)を積極的に図っていき、会員になることのメリットを強調していきたいと考えている。

#### 【再掲】

- ・文化芸術体験出前講座(生活文化課)
- ・食生活改善地区組織育成・強化推進事業(活動支援・リーダー育成) (健康地域ケア推進課)

#### (4) 文化を活用した地域づくり

事業名	事業内容	R4 年度実績	R5 年度取組状況	今後の方針・方向性
①アーカスプロジェクト 推進事業 (地域振興課) 決算額等(千円) R4 決算:5,489 R5 当初:5,489	海外からアーティストを招き、滞在中の制作活動を支援する「アーティスト・イン・レジデンスプログラム」や、県民が身近に芸術を体験できる「地域プログラム」などを通じ、芸術を活かした創造性豊かな地域づくりと本県のイメージアップを図る。	1 公募によるアーティスト・イン・レジデンス 招聘アーティスト:3組 2 海外のアート団体等との連携プログラム R5 年度連携に向けた準備 3 連携促進プログラム 展覧会等参加者数:464 人 4 短期のアーティスト・イン・レジデンス 招聘アーティスト:2組 5 地域プログラム ワークショップ等:7回、参加者数:202 人	1 公募によるレジデンスプログラム 招聘アーティスト:2組 招聘期間:9月上旬～12月上旬 2 海外のアート団体等との連携プログラム 日本・韓国アーティスト:各1組 活動期間:約60日間 3 短期のアーティスト・イン・レジデンス 招聘アーティスト:4組 4 地域プログラム ワークショップ等の開催	引き続き、「アーティスト・イン・レジデンスプログラム」および「地域プログラム」の実施により、アートを活かした魅力ある地域づくりを推進する。

#### (5) 文化交流の推進

事業名	事業内容	R4 年度実績	R5 年度取組状況	今後の方針・方向性
①全国高等学校総合文化祭への活動支援 (文化課) 決算額等(千円) R4 決算:1,954 R5 当初:3,000	高等学校相互の交流を図るとともに、高等学校における合唱や美術工芸等の部活動の振興に資するため、全国高等学校総合文化祭に県代表校を派遣する。	第46回全国高等学校総合文化祭へ、次のおり県代表校を派遣した。 ・開催期間:令和4年7月31日～8月4日 ・開催地:東京都 ・参加状況:規定16部門 延べ75校241人参加	次のおり県代表校を派遣する。 ・開催期間:令和5年7月29日～8月4日 ・開催地:鹿児島県 ・派遣部門:総合開会式など19部門	引き続き、県代表校の派遣により、高等学校相互の交流や学校における文化芸術活動を推進する。

事業名	事業内容	R4 年度実績	R5 年度取組状況	今後の方針・方向性
②国文祭への参加支援 (生活文化課) 決算額等(千円) R4 決算:- R5 当初:-	国文祭開催県から出演者(団体)募集があった際、県内市町村及び文化団体に情報提供するとともに出演者(団体)の推薦を行う。	おきなわ 2022 派遣団体(3 団体) ・茨城県かるた協会 ・創作和太鼓集団みのり太鼓 ・はつらつ健康マーじゃん会	いしかわ 2023 派遣団体(内定) ・[K・M・D・I 付属]Yuko-Dance-Academy 流通経済大学ダンス部 ・県立大洗高等学校マーチングバンド部 ・水戸はつらつ健康マーじゃん会 ・茨城県かるた協会	情報提供を行い、機運を醸成する。県内の文化団体に、国文祭への積極的な参加を呼びかける。
③語学指導等を行う外国青年招致事業 (国際渉外チーム) 決算額等(千円) R4決算:14,828 R5当初:17,939	外国から青年を招致し、学校や自治体に配置することで、外国語教育の充実を図るとともに、地域レベルの国際交流を推進する。	外国青年配置数:77人(R5.3.31 時点) ※新型コロナの影響により、大半の外国青年の来日が延期 【内訳】 茨城県:63 人(CIR 4 人、ALT 59 人) 市町村:10 人(CIR 2 人、ALT 8 人) 私立学校: 4 人(ALT 4 人)	外国青年配置予定数:80 人 【内訳】 茨城県:69 人(CIR 4 人、ALT 65 人) 市町村:6 人(CIR 2 人、ALT 4 人) 私立学校: 5 人(ALT 5 人)	外国青年の一層の活用を図り、引き続き外国語教育の充実及び地域レベルの国際交流を推進していく。
④国際交流協会運営費補助 (国際渉外チーム) 決算額等(千円) R4決算:48,883 R5当初:49,586	(公財)茨城県国際交流協会の運営に要する経費の一部補助を行う。	1 多言語による情報提供(11 言語) 多言語サイトアクセス数:78,968 件 2 外国人相談事業(31 言語(翻訳機器等の対応言語を含む。)) 相談件数:1,155 件 3 多文化共生サポーターバンクの運営 登録人数:延べ 980 人 4 国際理解の推進 ワールドキャラバン講師派遣回数 40 回	1 多言語による情報提供(11 言語) 2 外国人相談事業(31 言語(翻訳機器等の対応言語を含む。)) 3 多文化共生サポーターバンクの運営 4 ワールドキャラバン講師派遣	協会が円滑な事業の実施と運営を行い民間における国際交流推進の中核組織としての機能を果たせるよう、運営費等を補助する。

事業名	事業内容	R4 年度実績	R5 年度取組状況	今後の方針・方向性
⑤上海事務所事業費 (国際渉外チーム) 決算額等(千円) R4決算:36,414 R5当初:51,450	近年拡大している中国の消費市場をターゲットとし、本県の観光需要の掘り起こしや県産品の販路拡大等につなげるため、国際文化交流を推進する。	観光地や特産品、伝統工芸品の PR を実施 ・日本(山東)輸入商品博覧会 2022 年 7 月 15 日～18 日・済南市 ・西安シルクロード国際旅遊博覧会 2022 年 8 月 14 日～18 日・西安市 ・日中国交正常化 50 周年記念レセプション茨城県ブース出展 2022 年 9 月 6 日・山東省青島市 ・笠間焼香炉製作アンケートイベント 2022 年 9 月 13 日～15 日・上海市 ・中国国際輸入博覧会 2022 年 11 月 5 日～10 日・上海市 ・上海ジャパンプランドフェア 2023 年 2 月 4 日～5 日・上海市 ・成都ジャパンプランドフェア 2023 年 3 月 25 日～26 日・成都市	中国のゼロコロナ政策の解除により、コロナ禍で見送り又は中止になっていた見本市が再開され始めているので、積極的に出展し、観光地や特産品、伝統工芸品の PR を実施していく。	中国全土で開催される見本市に積極的に出展し、本県の観光需要の掘り起こしや県産品の販路拡大等につなげるため、国際文化交流を推進する。

【再掲】

- ・アーカスプロジェクト推進事業(地域振興課)

## 4 事業KPI

・県民文化センターの利用者数(単位:万人)★3 目標達成度【概ね期待通りの成果】

	2020(基準) R2	2022 R4	2023 R5	2024 R6	2025(目標) R7
目標値	—	40	60	60	60
実績値	13	34			
達成率	—	85.0%			

### 【事業 KPI を構成する関連事業】

- ・II (1)② 県民文化センター管理委託
- ・V (3)① 県民文化センター施設整備

・伝統文化団体への発表機会提供 (単位:団体)★4 目標達成度【期待以上の成果】

	2020(基準) R2	2022 R4	2023 R5	2024 R6	2025(目標) R7
目標値	—	15	30	35	40
実績値	11	24			
達成率	—	160.0%			

### 【事業 KPI を構成する関連事業】

- ・I (1)⑥ 子ども伝統文化フェスティバル
- ・II (2)① 伝統文化総合支援事業

## 5 事業の評価

「県民文化センターの利用者数」は、令和2年度の約13万人、令和3年度の約24万人を上回る約34万人となり、目標達成率は85.0%と「概ね期待通りの成果」となった。世界一流ピアニストや大型フルオーケストラ等による多種多様なジャンルの舞台公演を実施したほか、過去に施設利用実績があるリピーターへの空き情報の提供や、新規利用団体発掘のための積極的な営業活動等を行った。

また、「伝統文化団体への発表機会提供」については、県内のイベントでの出演機会の提供や、小学校の放課後子ども教室での伝統文化体験会等の実施により達成率は160.0%となり、目標達成度は「期待以上の成果」となった。

## 6 今後の展開・方向性

令和5年7月に水戸市民会館が開館したことを踏まえ、機能強化も含め、県民文化センターに何が求められているのかを検討していくとともに、引き続き県民の発表機会や鑑賞機会の提供に努める。

文化施設及び文化施設以外での集客力のある施設において、文化芸術や伝統文化を発表する機会の確保を図ることにより、担い手のやる気向上や県民が文化芸術に触れる機会の確保に繋げていく。また、文化団体や市町村等との連携を図りながら、伝統文化の掘り起こしに取り組みつつ、伝統文化の一層の発信力向上を図っていく。

### Ⅲ 文化的資産の活用

#### 1 施策方向

地域の文化的資産を観光・産業振興や地域振興等に積極的に活用する。また、文化財の適切な保護・継承を図る。

#### 2 課題

我が県の長い歴史の中で形成、伝承されてきた数多くの伝統的な文化財の適切な保存を進めていくことはもとより、これらの文化財を公開するなどして、文化財の活用を図っていくことが求められている。

また、良好な県土の景観を保全し、創造していくためには、公共の建物等の建築に当たり、周囲の自然景観や地域の歴史的及び文化的な特性に配慮する必要がある。

#### 3 県の取組状況

##### (1) 文化的資産の活用

###### 【再掲】

・フィルムコミッション推進事業(観光物産課)

##### (2) 文化財の保存等

事業名	事業内容	R4 年度実績	R5 年度取組状況	今後の方針・方向性
①文化財等整備費補助事業 (文化課) 決算額等(千円) R4 決算:49,976 R5 当初:53,922	国・県指定文化財の管理、修理、防災、保存及び公開等に対して補助を行う。 また、県所有文化財(美術工芸品)の保存修理を行う。	薬王院本堂をはじめ3件の国指定重要文化財及び穂積家住宅をはじめ5件の県指定文化財の保存修理等に対して補助金を交付し、文化財の保護、整備及び調査を実施した。 また、本県が所有する国指定重要文化財である一橋徳川家関係資料の保存修理を実施した。	笠間稲荷神社本殿をはじめ3件の国指定重要文化財及び鳴鳥五所神社本殿をはじめ8件の県指定文化財の保存修理等に対して補助金を交付し、文化財の保護、整備及び調査を実施する。 また、本県が所有する国指定重要文化財である一橋徳川家関係資料の保存修理を引き続き実施する。	文化財所有者の負担軽減を図り、指定文化財の適切な保護に寄与する。

事業名	事業内容	R3 年度実績	R4 年度取組状況	今後の方針・方向性
②埋蔵文化財調査 (文化課) 決算額等(千円) R4 決算:21,936 R5 当初:26,451	埋蔵文化財の保存・管理、出土品を活用した展示・公開、体験学習を行うことにより、埋蔵文化財の保護と普及啓発を図る。	・利用者数:2,589 名 ・わくわく体験教室参加者数:155 名 (年 7 回実施) ・出前授業:24 件(小中学校 12、他 12) ※新型コロナの影響により、わくわく体験教室は人数を制限して実施。	・わくわく体験教室:2回実施(全7回予定) ・出前授業:6件(小中学校6) (いずれも6月23日現在) ※展示室等で解説資料や拡大写真のQRコードでの提供を試験的に導入し、来館者への情報提供手段の充実を図る。	「新たな日常」における郷土の文化発信拠点として、体験活動資料の動画配信やリモート出前授業などを行える環境整備を進めていく。

【再掲】

- ・東関東の盆綱総合調査事業(民俗文化財活性化促進事業)(文化課)

(3) 公共の建物等の建築に当たっての配慮

事業名	事業内容	R4 年度実績	R5 年度取組状況	今後の方針・方向性
①景観形成条例施行事務 (都市計画課) 決算額等(千円) R4 決算:580 R5 当初:2,228	○大規模行為届出に係る審査事務 市町村、建築指導課、県民センター建築指導課及び特定行政庁と連絡調整を行い、円滑な運用を図る。 ○条例等の運用 公共事業等景観形成指針を運用し、地域の歴史的・文化的特性に配慮した公共の建築物の建築・改修を促す。	大規模行為届出受理件数 67 件	大規模行為届出受理件数 (年度末に集計)	—

#### **4 事業KPI**

設定なし

#### **5 事業の評価**

事業KPIを設定していないため数値による評価はできないが、国や県指定文化財等を保存・保護していくために必要な補助等の実施や、埋蔵文化財の保護と普及啓発に着実に取り組んでいる。

#### **6 今後の展開・方向性**

引き続き、文化財の保存や活用を進めていくことはもとより、文化的資産の再発見・再認識を通して、地域の魅力を引き出し、市町村等とも連携しながら、観光振興や地域振興に活かしていく。

#### IV 文化活動の充実

##### 1 施策の方向

多様な人々が身近な場所で、様々な文化に触れ親しみ、鑑賞し、参加し、創造することができる環境づくりを図る。

##### 2 課題

青少年や子育て中の保護者、高齢者や障害者、外国人など、より多くの県民が文化についての関心を高め、幅広く文化活動に触れられる機会を提供する必要がある。

##### 3 県の取組状況

###### (1) 県民の文化活動の充実

事業名	事業内容	R4 年度実績	R5 年度取組状況	今後の方針・方向性
①茨城県文化振興条例及び計画の周知 (生活文化課) 決算額等(千円) R4 決算:— R5 当初:—	県民がより一層文化についての関心を高め、理解を深めることができるよう文化に対する意識の醸成を図る。	1 茨城県文化振興条例及び計画の進行管理に係る審議会の情報等:県ホームページ掲載等により、周知を図った。 2 文化振興事業等:ホームページ「いばらき文化情報ネット」への掲載等により周知を図った。	引き続き、県ホームページ等において、茨城県文化振興条例及び計画に基づく文化振興事業等の情報発信及び周知を図っていく。	引き続き、県ホームページ等において、茨城県文化振興条例及び計画に基づく文化振興事業等の情報発信及び周知を図っていく。
②いばらき文化振興財団運営費補助 (生活文化課) 決算額等(千円) R4 決算:47,747 R5 当初:51,879	県民の文化振興の担い手として大きな役割を果たしている文化振興財団の育成を図る。	文化振興財団の運営に要する経費を補助。 ・R4 年度実績額:47,747 千円	文化振興財団が県の文化行政の一翼を担う役割を果たしていることから、引き続き、運営に要する経費を補助していく。	文化振興財団が県の文化行政の一翼を担う役割を果たしていることから、引き続き、運営に要する経費を補助していく。

事業名	事業内容	R4 年度実績	R5 年度取組状況	今後の方針・方向性
③つくば美術館美術普及事業 (文化課) 決算額等(千円) R4 決算:495 R5 当初:495	県民の美術への親しみや関心を深めるため、多様な普及活動を積極的に実施する。	1 貸ギャラリー展の実施 44 団体・個人 延べ利用者数:42,725 人 2 美術講演・講座等の開催 ・土曜講座(美術講座):11 回 ・美術講演会:1 回 ・ワークショップ:4 回 ・ビデオ鑑賞会:11 回	1 貸ギャラリー展の実施 44の団体・個人が展覧会を開催予定 2 美術講演・講座等の開催 ・土曜講座(美術講座):10 回 ・美術講演会:1 回 ・ワークショップ:3 回 ・ビデオ鑑賞会:11 回	現在の普及活動を継続して実施する。
④現代茨城作家美術展★5 (生活文化課) 決算額等(千円) R4 決算:- R5 当初:5,000	県民の文化活動の充実を図るため、本県を代表する作家の優れた美術作品を展示することにより、多くの県民に文化芸術を鑑賞する機会を提供する。	(隔年開催のため実施せず)	第 13 回現美展 期間:1月 20 日～2月 12 日 場所:県近代美術館 部門:日本画、洋画、彫刻、工芸美術、書、写真、デザイン(7部門 100 点)	より本展が県民に浸透するよう、第 12 回より愛称である「現美展」を前面に出して美術展覧会と協働して広報を実施していく。
⑤移動展覧会★6 (生活文化課) 決算額等(千円) R4 決算:6,749 R5 当初:6,750	県内各地で広く県民が優れた美術を鑑賞できる機会を提供するとともに、本県の芸術家の作品発表の場を提供するため、茨城県美術展覧会に属する作家の作品などを展示する移動展覧会を開催する。	1 茨城県陶芸美術館 期間:6月 4 日～6月 19 日 14 日間 入場者数:1,011 人 2 つくば美術館 期間:6月 28 日～7月 10 日 12 日間 入場者数:1,287 人 3 茨城県天心記念五浦美術館 期間:3月 1 日～3月 12 日 11 日間 入場者数:1,208 人 ※ギャラリートークの様子を録画編集のうえ YouTube 等に投稿した。	1 陶芸美術館 期間:6月 10 日～6月 25 日 14 日間 2 つくば美術館 期間:7月 11 日～7月 23 日 12 日間 3 天心記念五浦美術館 期間:2月 23 日～3月 10 日 15 日間	引き続き県民が本県芸術家の作品を鑑賞できる機会を提供する本展を継続するとともに、会期中に実施しているギャラリートークについて、会場に来られない方でも楽しむことができる動画投稿形式での実施を行っていく。

#### 【再掲】

- ・茨城県芸術祭(生活文化課)
- ・近代美術館美術普及事業(文化課)
- ・天心記念五浦美術館美術普及事業(文化課)
- ・陶芸美術館美術普及事業(文化課)

## (2) 高齢者・障害者等の文化活動の充実

事業名	事業内容	R4 年度実績	R5 年度取組状況	今後の方針・方向性
①高齢者自身の取組み支援事業 (長寿福祉課) 決算額等(千円) R4 決算:13,850 R5 当初:14,213	高齢者が活躍できる社会を目指し、高齢者のスポーツ・健康づくり・地域活動等を推進するため、茨城県健康福祉祭の開催やニューススポーツの推進を行う。	1 ニューススポーツの推進 ・ニューススポーツ推進員養成講習会の開催 参加者:35名 ・ニューススポーツ体験教室の開催 参加者:126名 ・ニューススポーツ担当職員等体験会の開催 参加者:198名  2 第27回茨城県健康福祉祭の開催 ・いばらきねりんスポーツ(交流)大会 参加者:約1,100名 ・全国健康福祉祭(ねりんピックかながわ2022)選手等派遣者数:157名 ・「わくわく美術展」実施 出品申込数:448点、入場者数:1,571名 ・「ぼく☆わたしのおじいちゃん☆おばあちゃんの絵コンクール」実施 応募総数:1,022点	1 ニューススポーツ・eスポーツの推進 ・ニューススポーツ推進員養成講習会の開催 ・ニューススポーツ体験教室の開催 ・eスポーツ体験会の実施 ・eスポーツフォローアップ研修の実施  2 全国健康福祉祭「ねりんピック笑顔(えがお)のえひめ2023」への選手団派遣 10月下旬開催 約160名派遣予定  3 第28回茨城県健康福祉祭の開催 ・いばらきねりんスポーツ交流大会 令和5年4月～令和6年3月 ・いばらきねりんスポーツ中央大会 10月開催予定 ・「わくわく美術展」の実施 ・「ぼく☆わたしのおじいちゃん☆おばあちゃんの絵コンクール」の実施	昨年度に引き続き、オンラインの活用や、よりニーズの高い事業への見直し等について、検討を行っていく。
②元気シニア地域貢献事業 (長寿福祉課) 決算額等(千円) R4 決算:3,367 R5 当初:3,466	高齢者が培ってきた豊富な知識・経験・技術・ノウハウを地域社会に還元するための人材バンク(元気シニアバンク)を創設し、登録のある高齢者が広く活躍できる場となっている。	1 元気シニアバンク登録累計件数 (R5.3末時点) 286件(個人:134件、団体:152件)  2 バンク利用状況 ・紹介申込件数:157件 ・新聞広告掲載:2紙 (読売新聞、茨城新聞)	1 元気シニアバンク登録者数 県民センターおよび各関係機関への広報の実施に加え、新聞広告掲載や老人クラブ研修会における事業の紹介により登録件数の増加を図る。 目標件数 300件(R5末)  2 バンク利用状況 市町村放課後児童クラブ担当課や、市町村教育委員会を經由して各学校への広報を実施することにより紹介申込件数の増加を図る。	地域コミュニティの希薄化で、高齢者の閉じこもり増が懸念されることから、地域と高齢者との一層のつながりを生み出し、高齢者の地域貢献を推進する。シニアバンク利用者と高齢者双方にメリットが生まれる場を積極的に提供していく。

事業名	事業内容	R4 年度実績	R5 年度取組状況	今後の方針・方向性
③障害者週間推進事業 (障害福祉課) 決算額等(千円) R4 決算:1,048 R5 当初:1,860	障害児者による音楽・ダンス・演劇等の発表や美術作品の展示等の文化活動を通じ、障害児者と地域社会の交流を深め、障害児者の社会参加促進を図る。	ナイスハートふれあいフェスティバル 2022 1 期日: 12月1日～12月5日 2 発表会: いばキラ TV にて動画配信 (8 団体) 3 美術展: 作品数 310 点 (制作者 525 名) ※新型コロナの影響により発表会を中止したが、ダンス等の動画を募集し、いばキラ TV で配信した。	ナイスハートふれあいフェスティバル 2023 1 期日: 12月7日～12月11日 2 発表会: 12月9日 ・参加者 15 団体 200 名 (見込み) 3 美術展: 12月7日～12月11日 ・作品数 450 点 (制作者 600 名) (見込み)	R4 年度は、新型コロナウイルスの感染症の影響で R2 年度及び R3 年度と同様に発表会を中止したが、R5 年度は例年どおり発表会、美術展を実施する予定である。
④ナイスハートふれあいフェスティバル(学校教育の部) (特別支援教育課) 決算額等(千円) R4 決算:690 R5 当初:1,524	特別支援学校、小・中学校等の特別支援学級や通級指導教室に通う幼児児童生徒が日頃の学習成果の発表をとおして学習活動や社会参加への意欲を高めるとともに、特別支援教育に対する県民の理解と認識を深める。	1 期日: 12月2日～12月6日 2 発表会: いばキラ TV にて動画配信 (2 団体) 3 美術展: ・作品数 :3,944 点 ・見学者数:2,430 名 ※新型コロナの影響により、学習発表会を中止。発表会への出演予定校のうち、希望する学校については録画した動画を「いばキラ TV」で配信した。	1 期日: 12月8日～12月11日 発表会: 12月8日(金) ・出演者数:7 団体 150 名 (見込み) ・見学者数:1,500 名 (見込み) 2 美術展: 12月8日～12月11日 ・作品数:4,000 点 (見込み) ・見学者数:4,000 名 (見込み)	特別支援学校、小・中学校等の特別支援学級や通級指導教室に通う幼児児童生徒の学習活動や社会参加への意欲を高め、また特別支援教育に対する県民の理解と認識を深めるため、発表会及び美術展を実施する。参加希望状況等によっては、内容を変更して実施する場合もある。

【再掲】

- ・文化芸術体験出前講座(生活文化課)

(3) 青少年の文化活動の充実

【再掲】

- ・茨城県小中学校芸術祭開催(文化課)
- ・茨城県高等学校総合文化祭開催(文化課)

## 4 事業 KPI

・現代茨城作家美術展の入場者数(単位:人) ★5

	2019(基準) R1	2022 R4	2023 R5	2024 R6	2025(目標) R7
目標値	—	—	8,800	—	10,000
実績値	8,276	—		—	
達成率	—	—		—	

【事業 KPI を構成する関連事業】

・IV(1)④現代茨城作家美術展

・移動展覧会の参加者数(単位:人) ★6 目標達成度【概ね期待通りの成果】

	2020(基準) R2	2022 R4	2023 R5	2024 R6	2025(目標) R7
目標値	—	4,000	5,000	5,500	6,000
実績値	3,198	3,506			
達成率	—	87.7%			

【事業 KPI を構成する関連事業】

・IV(1)⑤ 移動展覧会

(再掲)・関連事業の参加者数(単位:人) ★2 目標達成度【期待以上の成果】

	2020(基準) R2	2022 R4	2023 R5	2024 R6	2025(目標) R7
目標値	—	11,000	13,000	13,000	13,000
実績値	9,574	14,888			
達成率	—	135.3%			

【事業 KPI を構成する関連事業】

・I(1)② 水戸室内管弦楽団メンバーによる器楽セミナー

・I(1)③ 文化芸術体験出前講座

## 5 事業の評価

移動展覧会の参加者数については、87.7%と目標には達しなかったものの、年間3回実施するギャラリートークの様子を動画で撮影し、YouTube や  
いばキラ TV に投稿することで、コロナ禍で展覧会に来られない方をはじめとする幅広い県民に対して、美術を鑑賞する機会の提供に努めた。

## 6 今後の展開・方向性

文化施設や学校、芸術系教育機関のほか、高齢者団体、障害者団体、国際交流団体などの多様な主体を所管する関連団体とも連携しながら、高齢者  
や障害者、青少年など、県民誰も一人ひとりが幅広く文化芸術活動を身近に感じ、触れ、親しむ機会を提供していく。

## V 文化活動の支援体制の充実等

### 1 施策の方向

多様な主体と連携し、文化振興施策の総合的な推進を図る。また、文化情報の効果的な発信や文化施設の機能の充実、地域の文化活動の支援等を図る。

### 2 課題

県から発信する情報がより多くの県民等に届くよう発信方法を工夫する必要がある。

文化施設については、適切な維持・保全を基本とし、老朽化対策を進めながら、文化情報発信の拠点としての機能を高めていく必要がある。

また、文化や芸術の専門家や市町村の意見を踏まえながら、文化団体等への適切な支援を行っていく必要がある。

### 3 県の取組状況

#### (1) 文化情報の収集及び提供

事業名	事業内容	R4 年度実績	R5 年度取組状況	今後の方針・方向性
①いばらき文化情報ネット整備 事業★7 (生活文化課) 決算額等(千円) R4 決算:264 R5 当初:484	市町村や県内文化施設と連携し、県内各地の音楽・演劇・伝統芸能・美術・祭り等の文化催事情報等をホームページ上で公開し、県民のニーズの多様化に対応したリアルタイムの情報提供を行う。	1 掲載内容 文化イベント情報、文化施設、文化活動団体、文化芸術活動への助成情報、県や国の取組、常陸国風土記、いばらきの伝統文化、茨城の先人たち 等 2 主な更新内容 文化イベント情報、お知らせ:121 件 3 アクセス件数 ページビュー数:301,820 セッション数:124,285  ※その他以下媒体を活用して情報発信 ・Twitter :143 件 ・県広報誌ひばり : 3 件 ・YouTube、いばキラ TV、NHK データ放送、ラジオ県だより :24 件	1 掲載内容 文化イベント情報、文化施設、文化活動団体、文化芸術活動への助成情報、県や国の取組、常陸国風土記、いばらきの伝統文化、茨城の先人たち 等 2 主な更新内容(R5.5 月末現在) 文化イベント情報、お知らせ:15 件 3 アクセス件数(R5.5 月末現在) ページビュー数:28,920 セッション数:15,558	「いばらきの伝統文化」ページに掲載している動画をスマートフォンでも閲覧できるよう改良するなどして、見やすく使いやすいホームページを目指している。より一層活用されるよう、コンテンツを充実させてゆく。茨城の文化や郷土の魅力を伝える記事を掲載する。

事業名	事業内容	R4 年度実績	R5 年度取組状況	今後の方針・方向性
②県政情報紙発行費(「ひばり」)(営業企画課) 決算額等(千円) R4 決算:136,519 R5 当初:155,466	県政に対する理解を深め、協力していただけるよう、県政の重要課題に対する県の考え方や施策に関する情報、県民の利便性を高める生活・地域情報等を掲載した県広報紙「ひばり」を作成、配布する。	12回/年 A4判全頁カラー印刷 870,000部/回(5月号~10月号) 850,000部/回(11月号~4月号) ※Twitter、LINE等のSNSでも配信	12回/年 A4判全頁カラー印刷 810,000部/回 ※Twitter、LINE等のSNSでも配信	引き続き、紙媒体やSNS等を通じ、県政情報の発信を行っていく。
③ラジオ広報(県だより等)(営業企画課) 決算額等(千円) R4 決算:29,954 R5 当初:29,855	茨城県全域をほぼカバーする民放ラジオ局茨城放送を媒体とし、県民の県政に対する理解を深めるため、県政の諸施策や催事案内について繰り返し情報提供する。 ※「県政レポート」は、県内コミュニティFM7局でも放送	「ラジオ県だより」(5分間) 771回/年 「県政スポット」(20秒CM) 771回/年 「県政レポート」(10分間) 10回/年 ※上記回数は文化情報以外も含む。	「ラジオ県だより」(5分間) 771回/年 「県政スポット」(20秒CM) 771回/年 「県政レポート」(10分間) 10回/年 ※上記回数は文化情報以外も含む。	引き続き、ラジオを活用し、県政情報の発信を行っていく。
④政策広報(新聞広報等)(営業企画課) 決算額等(千円) R4 決算:40,277 R5 当初:40,944	緊急または広く県民に周知を必要とする事項について、新聞に掲載を行うとともに、県内のケーブルテレビやコミュニティFM局を活用して、県民に身近な事業・施策等を紹介する番組を制作・放送する。	・「茨城県からのお知らせ」 掲載紙:中央紙6紙及び茨城新聞 8回/年 ・ケーブルテレビ(CATV・10分間) 放送局:県内ケーブルテレビ5社6局 8テーマ/年、毎週土・日放送 ※上記回数は文化情報以外も含む。	・新聞広告「茨城県からのお知らせ」 掲載紙:中央紙6紙及び茨城新聞 8回/年 ・ケーブルテレビ(CATV・10分間) 放送局:県内ケーブルテレビ5社6局 8テーマ/年、毎週土・日放送 ※上記回数は文化情報以外も含む。	引き続き、新聞やケーブルテレビを活用し、県政情報の発信を行っていく。
⑤県政キャンペーン広報(営業企画課) 決算額等(千円) R4 決算:1,892 R5 当初:1,892	県政の重要広報事項について、広く県民に周知するため、地域に密着した地方紙の紙面を利用して、テーマ別のキャンペーンを新聞に掲載する。	・「県政の焦点」シリーズ 茨城新聞:全2段×14回 ・「県政キャンペーン」 茨城新聞:全5段×3回 計全43段 ※上記回数は文化情報以外も含む。	・「県政の焦点」シリーズ 茨城新聞:全2段×14回 ・「県政キャンペーン」 茨城新聞:全5段×3回 計全43段 ※上記回数は文化情報以外も含む。	引き続き、新聞を活用し、県政情報の発信を行っていく。

事業名	事業内容	R4 年度実績	R5 年度取組状況	今後の方針・方向性
⑥インターネット情報発信事業 (営業企画課) 決算額等(千円) R4 決算:4,204 R5 当初:6,558	県民生活に必要な県政情報、各種事業・施策などの情報について、県ホームページや SNS で速やかに情報発信を行う。	県政ホットニュース、イベント、募集・採用情報、その他のお知らせ、報道発表事項などを掲載 ＜アクセス件数(年間)＞ トップページ:7,635,733 件 サイト全体 :120,117,410 件	県政ホットニュース、イベント、募集・採用情報、その他のお知らせ、報道発表事項などを掲載	引き続き、インターネットを活用し、県政情報の発信を行っていく。
⑦いばらきインターネットテレビ事業(いばキラ TV) (プロモーションチーム) 決算額等(千円) R4 決算:140,722 R5 当初:142,511	本県の魅力などを紹介する動画を制作し、インターネット上で国内外に広く発信する。	オンデマンド動画制作:438 本 年間視聴回数:42,778, 127 回	オンデマンド動画の制作(370 本/年)	引き続き、動画制作を通じて本県の魅力発信を行うことで、観光誘客や県産品の販売促進を図る。
⑧メディア訪問強化事業 (プロモーションチーム) 決算額等(千円) R4 決算:3,800 R5 当初:5,486	本県への観光誘客、県産品の販売促進を図るため、テレビや新聞等のメディアに対して効率的・効果的なパブリシティ活動を実施。	県職員によるメディアコンタクトや動画提供等により報道を獲得。 報道件数:158 件 うちTV:42 件	県職員によるテレビやラジオ、新聞、Webメディア等の首都圏メディアへの効率的・効果的なパブリシティ活動を行う。	引き続き、積極的にメディアコンタクトによるリレーションの構築や、動画提供等によるメディア露出の獲得を行うことにより、県の観光情報や県産品等の情報を発信していく。

事業名	事業内容	R4 年度実績	R5 年度取組状況	今後の方針・方向性
⑨メディア活用魅力発信強化事業 (プロモーションチーム) 決算額等(千円) R4 決算:32,738 R5 当初:22,585	首都圏や茨城空港就航先などのテレビ等のメディアを活用して茨城の観光地や特産品などの情報を発信する。	1 首都圏メディア ・在京キー局を中心としたテレビ番組での本県情報の露出拡大を図った。 ・報道件数:テレビ番組 10 件  2 茨城空港就航先等 ・茨城空港就航先である神戸・札幌エリア所在メディアを中心とした本県情報の露出拡大を図った。 ・報道件数:7件 うちTV:5 件	1 首都圏メディア ・農林水産物の重点品目(恵水、常陸の輝き、栗、常陸牛、イバラキング)や旬の観光スポットなど、在京キー局を中心に情報提供・制作協力等を行うことで、テレビ番組での露出を図る。  2 茨城空港就航先等 ・茨城空港就航先である神戸・札幌・福岡・沖縄エリアなどのメディアへの情報提供・制作協力を実施することにより、テレビを中心とする各種メディアでの露出を図る。	引き続き、各メディアへの情報提供・制作協力等の働きかけを行い、メディアでの露出拡大を図ることにより、県の観光情報や県産品等の魅力を発信していく。
⑩パブリシティ活動強化事業 (プロモーションチーム) 決算額等(千円) R4 決算:53,716 R5 当初:53,858	ノウハウと実績のあるPR会社等を活用し、各種メディアの番組制作やテーマ設定に関わるメディア関係者との関係を構築するとともに、ニュースリリース等を行い、各種メディアへの効率的・効果的なパブリシティ活動を展開する。	PR会社等に委託し、パブリシティに関する県内情報リサーチ、対メディア戦略の立案、プレスリリース等を実施した。  報道件数:2,338 件(うちTV:117 件) 広告換算額:約 130 億円 メディアコンタクト数:633 件 取材誘致件数:121 件	PR会社等に委託し、パブリシティに関する県内情報リサーチ、対メディア戦略の立案、プレスリリース等を実施。	引き続き、県内情報のリサーチ、対メディア戦略の立案、プレスリリース等による取材誘致を行うとともに、特に、デスティネーションキャンペーンやブランド化を目指す重点5品目(常陸牛、常陸の輝き、イバラキング、恵水、栗)を中心としたメディア向けパブリシティ活動を強化することにより、県の魅力を発信していく。

## (2) 推進体制の整備

事業名	事業内容	R4 年度実績	R5 年度取組状況	今後の方針・方向性
①文化審議会開催費 (生活文化課) 決算額等(千円) R4 決算:551 R5 当初:878	茨城県文化振興条例に規定する事項等文化振興に関し必要と認める事項について調査・審議する。	文化審議会の開催 ・年3回開催 ・議題:茨城県文化振興計画に基づく取組 状況報告等	文化振興計画を推進するため、文化振興施策の実績等を文化審議会に報告し、事業の評価を行うとともに、今後の施策展開の参考とするため意見交換を行う。 ・年3回開催予定	—
②文化行政推進費(文化団体育成補助金) (生活文化課) 決算額等(千円) R4 決算:4,160 R5 当初:4,224	県域文化活動団体が実施する講習会や研修事業等の経費を助成し、組織の強化と活性化を図る。	文化団体育成補助 ・茨城県文化団体連合 3,936 千円 ・茨城県ユネスコ連絡協議会 224 千円	文化団体育成補助 ・茨城県文化団体連合 4,000 千円 ・茨城県ユネスコ連絡協議会 224 千円	引き続き県域で活動する文化団体に対し公演等文化事業に要する経費を補助し、アフターコロナにおいても活動が継続できるよう努める。

### 【再掲】

- ・いばらき文化振興財団運営費補助(生活文化課)

## (3) 文化施設の機能の充実

事業名	事業内容	R4 年度実績	R5 年度取組状況	今後の方針・方向性
①県民文化センター施設整備 (生活文化課)★3 決算額等(千円) R4 決算:76,260 R5 当初:120,712	老朽化した施設・設備の改修や、コロナ対策等施設の利便性の向上等に資する工事を行う。	次のとおり工事を行った。 ・大ホール棟外壁塗装改修工事 ・分館屋上防水改修工事 ・レストラン厨房給湯設備改修工事 また、備品(小ホール舞台幕、LED パーライト、電子黒板、カーペット)を購入。	次のとおり工事を行っているところ。 ・大ホール照明操作卓改修工事 ・本館直流電源装置蓄電池更新工事 ・レストラン厨房天井改修工事 また、備品(移動用音響操作卓、大ホール松羽目、ロビーチェア、ジェットヒーター)の購入を予定している。	県民文化センターは開館から50年以上が経過し、様々な設備の老朽化が進行していることから、必要な備品整備や施設改修等について優先順位を付け、計画的に進める必要がある。

事業名	事業内容	R4 年度実績	R5 年度取組状況	今後の方針・方向性
②アクアワールド茨城県大洗水族館施設整備★8 (生活文化課) 決算額等(千円) R4 決算:572,418 R5 当初:229,208	老朽化した施設・設備の改修や、コロナ対策等施設の利便性の向上等に資する工事を行う。	次のとおり工事を行った。 ・外壁塗装改修工事(第3期) ・高圧受変電設備 VCB 等更新工事 ・展示水槽等改修工事 ・照明等電気設備及びキャットウォーク改修工事 ・遊具設備改修工事 ・館内抗菌化コーティング業務委託	次のとおり工事を行っているところ。 ・発電機修繕工事 ・屋上防水改修工事(第1期) ・副受水槽及びポンプ更新工事 ・高圧接触器更新工事	施設の長寿命化を図り将来負担を軽減するとともに、さらなる魅力の向上により誘客促進につながるような施設改修等を進める。
③アクアワールド茨城県大洗水族館電気代等対策事業★8 (生活文化課) 決算額等(千円) R4 決算:120,579 R5 当初:119,000	原油等燃料価格の高騰に伴う電気料及び燃料費の上昇分に対する支援。	電気代等補助。 ・重油代高騰分 25,586 千円 ・電気第高騰分 80,660 千円	令和5年度の当初予算と実績の差額が対象となる見込み。 ただし、水族館の収支状況次第では執行しない可能性あり。	補助だけでなく、省エネプランを策定し、令和元年度と比較し8%の削減を目指し省エネに取り組む。(R4年度はR元年度比で6%削減の実績あり)
④文化施設整備 (文化課) 決算額等(千円) R4 決算:326,148 R5 当初:385,439	美術館・博物館の施設を安全かつ良好な環境に保つため必要な修繕等を実施する。	・近代美術館防火戸改修工事 ・五浦美術館照明改修工事 ・自然博物館空調設備改修工事	・近代美術館チラーユニット更新工事 ・五浦美術館高圧ケーブル更新工事 ・自然博物館高圧機器改修工事設計 ・陶芸美術館空冷ヒートポンプ更新工事 等	老朽化した施設の改修等を随時行い、適切な施設管理に努めていく。
⑤近代美術館資料整備 (文化課) 決算額等(千円) R4 決算:8,377 R5 当初:8,283	優れた美術作品を収集するとともに、所蔵品の修復・保存等を行う。	・購入・寄贈および管理換により44点の作品を新たに収蔵。 ・所蔵品の修復・燻蒸、展示室・収蔵庫等の環境調査の実施による作品保全に適した環境維持	・購入および寄贈、管理換による作品収蔵。 ・所蔵品の修復:3~6点(予定) ・作品燻蒸:年1回 展示室・収蔵庫等の環境調査:通年 ・作品保全に適した環境維持:通年	作品の収集活動や、修復・燻蒸等による作品保全等を、今後も継続して行っていく。

事業名	事業内容	R4 年度実績	R5 年度取組状況	今後の方針・方向性
⑥天心記念五浦美術館展示事業 (文化課) 決算額等(千円) R4 決算:34,290 R5 当初:31,975	岡倉天心記念室 岡倉天心の業績を遺品、書簡、写真パネルによって紹介するとともに、大観ら五浦の作家たちの作品や資料を紹介 ・企画展の開催	1 所蔵作品展の開催 所蔵作品の中から五浦の作家たちの日本画を中心に5期に分けて展示 入館者数:4,269人 2 企画展の開催 ・「おいでよ!花鳥画の世界」 会期:令和4年2月11日~4月17日 入館者数:2,152人(R4年分) ・「箱根・芦ノ湖 成川美術館コレクション展~花愛でるころ、恋の詩とともに~」 会期:4月27日~6月26日 入館者数:9,067人 ・「並河靖之の雅な技 世界を魅了した 明治の京都七宝」 会期:7月9日~9月25日 入館者数:8,939人 ・「再興院展の立役者 齋藤隆三」 会期:10月8日~11月27日 入館者数:6,115人 ・「のぞいてみよう!!東京美術学校課題画展」 会期:12月10日~令和5年2月5日 入館者数:6,832人 ・「旅するチバラキ~連作《水郷めぐり》の全貌」 会期:2月10日~4月23日 入館者数:5,958人(R4分)	1 所蔵作品展の開催 所蔵作品の中から五浦の作家たちの日本画を中心に6期に分けて展示 2 企画展の開催 ・「旅するチバラキ~連作《水郷めぐり》の全貌~」 会期:令和5年2月10日~4月23日 ・「椿×名品展 一ふたたび、五浦へ」 会期:4月29日~6月11日 ・「再興第107回院展 茨城五浦展」 会期:6月23日~7月17日 ・「岡倉天心『東洋の理想』から120年 天心と画家たちのアジア」 会期:7月22日~9月3日 ・「間島秀徳展」 会期:9月13日~11月26日 ・「天心が託した国宝の未来—新納忠之介、仏像修理への道」 会期:12月9日~令和6年2月12日 ・「水底に群れ、水面に集う」 会期:2月17日~4月14日	・天心記念室において、レプリカ中心の資料展示からオリジナルの比率を高め、内容の充実を図る。 ・隣県報道機関への広報活動の充実と県外来館者の誘致。 ・ドローン映像により美術館周辺の景観をアピールすることで、北茨城市や近隣観光施設等との連携による観光客の誘致。 ・日本画を中心にしつつも、異なるジャンルの日本美術の紹介を行い、幅広い層へ訴えていく。 ・明治から昭和にかけて活躍した日本画家に加え、平成以降に活躍する日本画家を取り上げ、現在進行形の美術を紹介していく。

事業名	事業内容	R4 年度実績	R5 年度取組状況	今後の方針・方向性
⑦自然博物館常設展 (文化課) 決算額等(千円) R4 決算:21,771 R5 当初:23,032	「進化する宇宙」など5つのテーマにより常設展を開催する。	「進化する宇宙」など5つのテーマによる常設展の適切な開催を行うため、常設展示保守点検、修繕、照明のLED化、展示更新設計等を行った。 ・常設展示保守点検、動刻設備メンテナンス ・展示室照明点検 ・第2展示室「鉱物の世界」コーナー展示更新 ・松花江マンモス骨格展示の点検及び補修 ・液浸標本関連展示の更新と安全処置 ・「学芸員からこんにちは」、「茨城の自然インフォメーション」、「トピックスコーナー」の定期的な小規模更新 ・常設展示の部分展示更新 ・常設展示の展示機器及び植物レプリカ修繕	今後も魅力ある博物館であるため、常設展の展示において以下のような計画を立て、実施する。 ・常設展示保守点検、動刻設備メンテナンス ・展示室照明点検 ・第2展示室サーベルタイガー展示ケースの更新 ・第5展示室地球気象モニターからの展示更新 ・「学芸員からこんにちは」、「茨城の自然インフォメーション」、「トピックスコーナー」の定期的な小規模更新 ・常設展示の部分展示更新 ・劣化した照明、ガラスなどの交換	安全性に配慮した部分改修を実施する。現在利用を停止している偏光顕微鏡やフィールドスコープ等について、新たな展示を検討する。展示室ごとに展示計画を検討・作成する。
⑧自然博物館企画展 (文化課) 決算額等(千円) R4 決算:72,081 R5 当初:85,116	4回の企画展を開催する。	1 「ミュージアムパークコレクション—コレなに？コレみて！自然の宝、大公開！—」 期間:令和4年2月26日～6月12日 入館者数:89,488人(R4分) 2 「昆虫展—みんな集まれ！日本のむし・世界のむし！—」 期間:令和4年7月9日～9月19日 入館者数:122,821人 3 「ときめく石—色と形が奏でる世界—」 期間:令和4年10月15日～令和5年1月29日 入館者数:122,243人 4 「いのちの色—世界をいろどる生きものたち—」 期間:令和5年2月18日～6月11日 入館者数:44,541人(R4分)	1 「いのちの色—世界をいろどる生きものたち—」 期間:令和5年2月18日～6月11日 入館者数:89,089人(R5分) 2 「うち無しでは生きられない！—あなたの知らない自然のしくみ—」 期間:令和5年7月8日～9月18日 3 「地衣類—木を、岩を、地面を彩る身近な生きもの—」 期間:令和5年10月7日～令和6年1月21日 4 「恐竜 vs 哺乳類(仮称)」 期間:令和6年2月24日～6月9日	多くの入場者が期待できそうな企画展、親子で楽しめる企画展、所蔵品を活用した企画展、調査研究の成果を発表する企画展等、予算のバランスを鑑みつつ、バラエティに富む内容の企画展を計画していく。

事業名	事業内容	R4 年度実績	R5 年度取組状況	今後の方針・方向性
⑨自然博物館資料整備 (文化課) 決算額等(千円) R4 決算:5,580 R5 当初:16,052	動物、植物、地学分野の展示用又は研究用資料の購入による収集と、調査研究活動や寄贈資料受け入れによる収集によって博物館資料の充実を図る。	合計 36,146 点の資料を収集した。 ・購入・製作資料:175 点 ・採集資料:7,277 点 ・寄贈資料:28,694 点	・県内の自然や学術的に貴重な資料を中心に収集を行う。 ・収蔵資料の増加に伴う収蔵庫の狭隘化対策の一環として、博物館の発見工房裏にある既設の野外管理棟の改修し、温湿度管理をあまり必要としない一部の資料を倉庫に移管することで、収蔵庫の部分的なスペース不足改善を図る。	寄贈の申し出が増えているが、学術的に貴重なコレクション等を中心に受け入れを行う。当館で受け入れができない資料については、資料は人類共通の遺産との視点に立ち、標本セーフティーネット等を利用して、他の保管場所や活用方法を探る。
⑩自然博物館学術調査研究 (文化課) 決算額等(千円) R4 決算:3,773 R5 当初:4,313	1 総合調査研究 茨城県の生物相やその変遷、地質等の地学的特性を把握するため、自然史資料の集積を図り、茨城県内の資料の目録をつくることを目的とする調査活動。  2 重点研究 茨城県の自然史や当館の博物館活動に関する重要な課題や今日的な課題をテーマとし、グループで行う調査研究活動	1 総合調査 令和4年度は、第Ⅲ期第2次総合調査2年目として、3つの団体に委託し、そこに当館の職員が加わって調査を実施した。茨城県の生物相やその変遷、地質などの地学的特性を把握するための資料収集と目録作りを行った。  2 重点研究 以下のテーマで各種機関と連携して実施 ・県内で駆除されたアライグマを用いた食性解析 ・県内ブナ林における哺乳類調査 ・湿地の植生の保全 ・特定外来生物オオバナミズキンバイの防除 ・県内ブナ調査 ・筑波山地域の地質と地形について ・那珂湊層群および双葉層群の化石から復元される後期白亜紀における北西太平洋域の生態系	1 総合調査 令和5年度は、第Ⅲ期第2次総合調査の3年目にあたる。調査は、3つの調査会を設けて外部有識者に委託し、そこに当館の職員が加わって進めている。調査地は県内全域を対象とし、未調査の場所や収集が不十分な分野の資料を中心に調査を実施している。  2 重点研究 以下のテーマで各種機関と連携して実施 ・博物館収集資料を用いた寄生虫調査 ・県内ブナ林における哺乳類調査 ・湿地の植生の保全 ・特定外来生物オオバナミズキンバイ防除 ・県内ブナ調査 ・筑波山地域の地質と地形について-上曽トンネル工事での産出鉱物- ・那珂湊層群および双葉層群の化石から復元される後期白亜紀における北西太平洋域の生態系 ・植物化石に基づく裸子植物から被子植物への分化及び被子植物の環境適応に関する研究	安全に留意しながら、調査研究を実施する。なお、外部団体に委託している総合調査については、実施にあたり十分注意をする必要がある。各団体と連携して県内各地域の特徴ある自然史資料の集積を図るとともに、併せて、第Ⅳ期総合調査の実施計画の策定を行う。

事業名	事業内容	R4 年度実績	R5 年度取組状況	今後の方針・方向性
	3 創造的調査研究 博物館職員の資質の向上と博物館活動の発展、さらに自然科学の向上発展に寄与することを目的として、職員各自の専門性や業務内容に関連したテーマに基づき行う調査研究活動	3 創造的調査研究 学芸員の専門性を生かした調査研究を外部資金等も活用しながら進めた。学芸系職員の資質向上と情報共有を図るため、館内での学芸研究発表会1月と3月に実施した。	3 創造的調査研究 学芸員の専門性を生かした調査研究を外部資金等も活用しながら進めている。学芸系職員の資質向上と情報共有を図るため、館内での学芸調査研究活動発表会を継続して実施する。	
①歴史館普及事業 (文化課) 決算額等(千円) R4 決算:9,855 R5 当初:9,215	各種講座や教室、展覧会での展示解説などの普及事業を実施し、歴史に親んでもらうとともに、利用促進を図る。	1 各種講座・教室等の開催、展示解説の実施等 常設展展示解説:2,403 人 特別展等展示解説:2,774 人 講演会:507 人 附属施設活用事業:4,163 人 各種講座・教室:1,095 人 歴史館に親しむイベント:20,779 人 学校教育との連携事業:2,949 人 郷土学習支援事業:1,135 人 その他:499 人  2 歴史館まつり、歴史館いちょうまつり等の開催 いちょうまつり:38,984 人	1 各種講座・教室等の開催、展示解説の実施等 常設展展示解説 特別展等展示解説 講演会 附属施設活用事業 各種講座・教室 歴史館に親しむイベント 学校教育との連携事業(実施予定) 郷土学習支援事業等 その他  2 歴史館まつり、歴史館いちょうまつり等の開催	来館できない事情の方にも応えられるよう、展示内容の紹介や歴史館まつり等のイベント内容について動画を配信するほか、展示に関するミニ知識をツイッターで随時紹介する等、SNSを積極的かつ効果的に活用した情報発信を行っていく。

事業名	事業内容	R4 年度実績	R5 年度取組状況	今後の方針・方向性
<p>⑫歴史館展示事業 (文化課) 決算額等(千円) R4 決算:34,977 R5 当初:34,500</p>	<p>・「茨城の歴史をさぐる」をテーマに、茨城の原始古代から近現代までの歴史を概観できる常設展示を開催する。 ・特別展、企画展を開催する。</p>	<p>1 特別展 ①読売新聞社企画巡回展 「知の大冒険－東洋文庫 名品の煌めき－」 会期:令和4年9月27日～11月23日 入館者数:10,202人 ②「鹿島と香取」 会期:令和5年2月17日～3月21日 入館者数:8,016人  2 企画展 ①「ビフォー・アフター三味塚古墳」 会期:令和4年4月29日～6月19日 入館者数:12,906人 ②「関東天台－東国密教の歴史と造形－」 会期:令和4年7月16日～9月4日 入館者数:3,836人 ③(アーカイブズ展)「茨城のみち－写真からみる交通の発達と県民のくらし－」 会期:令和4年12月10日～1月29日 入館者数:3,889人</p>	<p>1 特別展 ①「鹿島と香取」 会期:令和5年4月8日～5月7日 ②「那珂湊反射炉－鉄と近代を創る－」 会期:令和6年2月16日～4月7日  2 企画展 ①「メノツケドコロⅡ －収蔵品の謎を解明せよ!－」 会期:令和5年6月3日～7月30日 ②「むかしのはなし－登場するモノ、伝えるモノ－」 会期:令和5年8月12日～10月9日 ③「音楽家・松平頼則とその時代 －時代を切りひらいた巨匠の軌跡－」 会期:令和5年10月28日～12月17日</p>	<p>・感染予防対策を講じた体験型展示を開発していく。 ・感染拡大地域や諸事情で来館が難しい方々へ展示場・解説の動画撮影を行い、ユーチューブやツイッターでの配信を行っていく。</p>

事業名	事業内容	R4 年度実績	R5 年度取組状況	今後の方針・方向性
⑬まちづくり推進費 (都市計画課) 決算額等(千円) R4 決算: 690 R5 当初:1,496	1 まちづくりシンポジウム 開催地の実情や社会情勢に応じたテーマに基づき、講演やパネルディスカッション等を行うほか、「チャレンジいばらきまちづくり表彰」の表彰式を行う。 2 チャレンジいばらきまちづくり表彰	1 まちづくりシンポジウム 令和 5 年 1 月 12 日開催  2 チャレンジいばらきまちづくり表彰 まちづくりシンポジウム内で表彰を実施	1 まちづくりシンポジウム 開催時期未定  2 チャレンジいばらきまちづくり表彰 まちづくりシンポジウム内で表彰を実施する予定	—
⑭文化施設の連携体制の強化 (生活文化課・文化課) 決算額等(千円) R3 決算:- R4 当初:-	関東甲信越静岡ブロック文化・文化財行政主管課長協議会を共同で開催または、他県等で開催した際に出席することにより、文化財行政及び文化行政の連携を深める。	書面開催 (持ち回りにより事務局は東京都)	持ち回りにより、群馬県において当該会議を開催予定。	—

【再掲】

- ・県民文化センター管理委託(生活文化課)
- ・近代美術館美術普及事業(文化課)
- ・近代美術館常設展(文化課)
- ・近代美術館企画展(文化課)
- ・つくば美術館美術普及事業(文化課)
- ・天心記念五浦美術館美術普及事業(文化課)
- ・陶芸美術館美術普及事業(文化課)
- ・陶芸美術館常設展(文化課)
- ・陶芸美術館企画展(文化課)
- ・陶芸美術館資料整備(文化課)
- ・自然博物館教育普及事業(文化課)

#### (4) 地域における文化活動の支援

事業名	事業内容	R4 年度実績	R5 年度取組状況	今後の方針・方向性
①地域創造の助成事業 (生活文化課) 決算額等(千円) R4 決算:- R5 当初:-	(一財)地域創造より募集のあった助成金について、県内市町村等に情報提供するとともに、とりまとめを行い、申請を行う。	(1)地域の文化・芸術活動助成事業 採択1件:(公財)水戸市芸術振興財団  (2)地域伝統芸能等保存事業 採択1件:石岡市(コロナにより中止)	(1)地域の文化・芸術活動助成事業 採択3件:(公財)水戸市芸術振興財団 (公財)取手市文化事業団  (2)地域伝統芸能等保存事業 採択1件:石岡市	—

#### 【再掲】

- ・茨城県芸術祭(生活文化課)
- ・各文化活動への後援(生活文化課)
- ・いばらき文化振興財団運営費補助(生活文化課)
- ・文化行政推進費(生活文化課)

#### (5) 財政上の措置

事業名	事業内容	R4 年度実績	R5 年度取組状況	今後の方針・方向性
①文化振興基金積立金 (生活文化課) 決算額等(千円) R4 決算: 59 R5 当初: 2,926	文化振興を図るため、安定した財源を確保し、文化振興を推進する。	R4 運用益(受取利息) 59 千円 ・運用益及び基金の取崩しを伝統文化総合支援事業に活用	伝統文化総合支援事業に基金を充当	—

(6) 顕彰

事業名	事業内容	R4 年度実績	R5 年度取組状況	今後の方針・方向性
①ほう賞事務取扱費 (秘書課) 決算額等(千円) R4 決算:439 R5 当初:602	茨城県知事褒賞事務取扱 要領に基づき、表彰状、 賞状、感謝状、褒状等の 交付を行う。	・表彰状: 320 枚 ・賞 状: 915 枚 ・感謝状: 1,381 枚 ・褒 状: 14 枚	・表彰状: 50 枚 ・賞 状: 71 枚 ・感謝状: 75 枚 ・褒 状: 8 枚 ※令和5年5月31日現在	・スポーツ大会等の中止により、賞状申請件数が 減少していたが、コロナ禍以前の申請件数に戻り つつあるため、審査や筆耕の体制を維持する。
②県功績者表彰費 (秘書課) 決算額等(千円) R4 決算:3,140 R5 当初:3,952	・茨城県表彰規則に基づ き、県の名声を高めるとと もに、広く県民から敬愛さ れ、社会に明るい希望を 与えた方及び社会の進歩 発展に著しい功労・功績 のあった方等を表彰する。	・期日:令和4年11月9日 ・表彰対象者48人、8団体 特別功績者表彰1人 特別功労賞表彰6人 功績者表彰30人・6団体 新しいいばらきづくり表彰5人・2団体 知事奨励賞表彰6人	・期日:令和5年11月13日頃(調整中) ・10月上旬の受賞者決定を目指して、候 補者選考を進める。	・スポーツや文化芸術の活動がコロナ禍前と大差 なく行われるようになり、優れた功労者の発掘がし やすくなった一方で、賞区分によっては表彰分野 が偏ったり、候補者の発掘に苦慮する状況もある。 幅広い分野・年代の候補者の発掘に努めるととも に、今後の状況に合わせ適切な表彰式の開催方 法を検討していく。

#### 4 事業KPI

・各種媒体を通じた文化情報の発信件数(単位:件)★7 目標達成度【期待以上の成果】

	2020(基準) R2	2022 R4	2023 R5	2024 R6	2025(目標) R7
目標値	—	290	360	430	500
実績値	212	291			
達成率	—	100.0%			

【事業 KPI を構成する関連事業】

・V(1)① いばらき文化情報ネット整備事業

・(再掲)県民文化センターの利用者数★3 目標達成度【概ね期待通りの成果】

	2020(基準) R2	2022 R4	2023 R5	2024 R6	2025(目標) R7
目標値	—	40	60	60	60
実績値	13	34			
達成率	—	85.0%			

【事業 KPI を構成する関連事業】

・II(1)②県民文化センター管理委託

・V(3)①県民文化センター施設整備

・アクアワールド茨城県大洗水族館入館者数(単位:万人)★8 目標達成度【期待以上の成果】

	2020(基準) R2	2022 R4	2023 R5	2024 R6	2025(目標) R7
目標値	—	110	120	120	120
実績値	65	120			
達成率	—	109.0%			

【事業 KPI を構成する関連事業】

・V(3)② アクアワールド茨城県大洗水族館施設整備

・V(3)③ アクアワールド茨城県大洗水族館電気料等対策事業

## 5 事業の評価

「各種媒体を通じた文化情報の発信件数」については、ホームページやTwitter、県広報誌、YouTube、いばキラTV等を活用して年間291件の文化情報を発信したことにより、目標達成度は「期待以上の成果」となった。

また、「アクアワールド茨城県大洗水族館入館者数」は、令和2年度の65万人、令和3年度の80万人を大きく上回る120万人となり、当館における歴代3位の記録となった。誘客促進のため、水族館施設の一部リニューアルによる新たな魅力の発信や、季節に応じた展示内容の変更、人気アニメやキャラクターとのコラボ企画等を行ったことにより、目標達成度は「期待以上の成果」となった。

## 6 今後の展開・方向性

ホームページやSNSなどの媒体を活用して情報発信を行い、文化芸術に対する県民の意識醸成を図っていく。

また、県立文化施設については、施設の利便性向上や老朽化対策を行い、適切な維持管理に努めるとともに、引き続き利用者に安全・安心で快適な空間を提供していく。県民文化センターについては、若い世代をはじめとする各世代により多く鑑賞してもらえる公演をバランスよく開催するほか、過去に利用実績のあるリピーターを対象とした誘客や新規利用団体への営業活動等により、施設全体の利用者確保を図る。大洗水族館については、季節に対応した水槽展示内容の変更（ネモフィラ、バラ等をモチーフ）や、人気キャラクターとのコラボイベントの実施のほか、茨城デスティネーションキャンペーンを活用した首都圏広域からの集客強化を進める。